

平成26年度「中学校トップスポーツ競技育成事業」
選考委員会結果について

体育学校安全課
平成26年10月6日

1 事業の概要

中学校において「中学校トップスポーツ競技」として競技専門部を指定し、全国大会で活躍できる団体や個人を育成する。また、高校の「徳島トップスポーツ校育成事業」と連携し中学校での強化活動を高校につなげることで、本県の競技力向上を中・長期的な展望に立って、計画的・継続的に推進する。

徳島県中学校体育連盟会長・河野暁会長を委員長とする13名の委員により、中学校体育連盟加盟16競技中6競技の専門部長から提出された申請書とプレゼンテーションをもとに選考委員会を行った。

2 選考委員会

(1)開催日

平成26年10月6日(月)

(2)評価の観点

- ①指定を受けようとする理由
- ②全国大会等の競技成績
- ③各競技団体との支援体制
- ④運営方針、活動方針(強化計画)

(3)選考委員会の結果

6競技専門部の申請があり、選考委員会において評価の高かった3競技専門部に決定した。

競技専門部	指定理由
陸上競技	本事業の趣旨をよく理解し、強化する個人、種目等の理由が明確であり、県協会と連携した強化方針や活動計画もしっかり示されている。
新体操	過去5年以上にわたり、徳島県の中学校が四国のトップレベルを維持しており、これまでの全国大会の実績も申し分ない。今後も全校上位の成績が期待できる。
柔道	県連盟と連携した強化計画が明確に示され、これまでも全国トップレベルの選手を輩出している。今後この事業を活用することでより成果が期待できる。

平成26年度「中学校トップスポーツ競技育成事業」
選考委員会報告書

体育学校安全課
平成26年10月6日

徳島県中学校体育連盟会長、河野暁会長を委員長とする13名の委員により、中学校体育連盟全16競技中6競技の専門部長から提出された申請書とプレゼンテーションによる選考審査を行った。

選考委員会では、

1. 指定を受けようとする理由
2. 全国大会等の競技成績
3. 各競技団体との支援体制
4. 運営方法。活動方針（強化計画）

の4つの観点項目から総合評価を行い、その集計をもとに審議を行った。

陸上競技・新体操・柔道

本事業の趣旨をよく理解し、強化する個人、種目等の理由が明確であり、県協会と連携した強化方針や活動計画もしっかり示されていた。今後この事業を活用することにより成果が期待できる。

弓道・サッカー

競技成績は優秀であるが、指定を受けようとする理由や強化方針・活動計画等が明確でない。また県協会と連携した曖昧で強化計画が示されていない。

卓球

競技成績が基準を満たしていない。また県協会と連携した強化方針や活動計画が示されていない。

選考の過程で委員から、

「申請書やプレゼンテーションの評価も大事であるが、成果の上がる競技を指定するのがいいのではないか。」

「サッカーなどが成果をあげるのは難しい。個人種目の柔道や弓道、継続的に実績をあげている新体操に強化費を付けてはどうか。」

「今年度は、残り半年なので来年度に枠を残す意味でも3競技程度でいいのではないか。」

等の意見があり、点数集計の上位3競技を「中学校トップスポーツ競技」とするのがふさわしいとの評価となった。以上のことから、申請のあった6競技専門部のうち、

- ・陸上競技
- ・新体操
- ・柔道

の3競技が中学校トップスポーツ競技に相当であるという結論に至った。

今後の方針について

- ・強化費の配分の仕方については、初年度であるので均等割とする。2年目以降については査定を厳しくして差を付けていく。
- ・申請書の書き方に競技によって差があったので、評価規準を明確に示す。
- ・申請書に事業計画や予算書があればより具体的な評価につながる
- ・平成27年度には5月初旬までに選考委員会をする。